

## HEM - Net シンポジウム 開催要領

### ドクターヘリと消防防災ヘリのコラボレーション 東日本大震災の教訓を踏まえて

#### 1 趣旨

3月11日に発生したマグニチュード9.0の巨大地震は大津波を引き起こし、死者・行方不明者は2万人近くに上っています。加えて、誘発された原発事故による放射能汚染は未だ終息を見ていません。

今回の東日本大震災においては、18機にも上るドクターヘリが現地に飛び、救急・救助活動に活躍いたしました。この数は当時全国に配備されていたドクターヘリ26機の約70%に当たります。一方、消防防災ヘリは緊急消防援助隊の航空隊として多方面の活躍をいたしました。最大応援実働機数は47機に及びました。自治体のヘリコプターは阪神・淡路大震災の反省に立ってこのように見違えるような活躍をしましたが、他方、多くの課題も見つかりました。そもそも大規模災害時におけるドクターヘリの拠るべき基準はあるのか、また、共に自治体のヘリコプターであるドクターヘリと消防防災ヘリはどのように連携すべきなのか。実はこれらの課題は未だ解決されていません。しかし、東海地震、東南海地震及び南海地震連動の巨大地震が危惧されている今日、早く、一定の方向付けをすることが求められています。

#### 2 開催日時

2011年11月25日(金) 13時30分～17時

#### 3 開催場所

全国町村議員会館 2階 大会議室  
千代田区一番町25番

#### 4 主催

認定NPO法人 救急ヘリ病院ネットワーク (HEM - Net)

## シンポジウム次第

総合司会

HEM-Net 副理事長

篠田 伸夫

1. 開会の挨拶 (13:30 ~ 13:40) HEM-Net 理事長 國松 孝次
2. 基調 講演 (13:40 ~ 14:40)  
「大規模災害時における救命活動と医療復活への道筋」  
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科・医学部 疫学・衛生学分野教授  
土居 弘幸  
休憩 (10 分間)
3. シンポジウム (14:50 ~ 16:50)  
「ドクターヘリと消防防災ヘリのコラボレーション」  
東日本大震災の教訓を踏まえて

パネリスト (順不同)

土居 弘幸 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授)  
井上 誠一 (厚生労働省医政局指導課長)  
小井土 雄一 (災害医療センター臨床研究部長)  
高橋 哲郎 (総務省消防庁応急対策室長)  
猪口 貞樹 (ドクターヘリ基地病院連絡協議会委員長)  
田勢 長一郎 (福島県立医科大学附属病院救急科部長)  
今 明秀 (八戸市立市民病院救命救急センター 所長)

司会 篠田 伸夫 (HEM-Net 副理事長)

閉会の挨拶 (16:50 ~ 17:00) HEM-Net 副理事長 小濱 啓次